

3

参考となる学習活動

(2) 違いを豊かさに編

人間には、人種、性別、年齢、障害のあるなしなど、外見的に「違い」があるだけでなく、価値観、宗教、生き方、考え方、性格、態度など、それぞれの内面にも「違い」があります。しかし、私たちは、ともすれば、まわりの人も自分と「同じ」ように考えている、感じていると思いがちです。自分たちと異なることがあると、それを排除し攻撃しようとする傾向が見られます。知らず知らずのうちにマイナスの固定観念を持ってしまい、それが差別や偏見につながる場合があります。共に生きる社会の構築に向けて、お互いの「違い」を認め合い、寛容性を育むことが大切です。

ここでは、多様な文化や生き方を尊重することについて考えていくことにします。

(多様性等について考える学習活動は、テーマ学習編「ちがいのちがひ」P78にも掲載しています。)

1 大切なわたしのからだ

2 わたしの長所・短所

3 4つのコーナー

4 ジャガイモさんと友達になろう

5 CMクリエイターになろう！

1 大切なわたしのからだ

小学 - 低

ねらい

- ・自分の独特な身体的特徴を知る。
- ・すべて、命あるものの成長と変化のしかたについて認識する。

準備物

色鉛筆、ワークシート「世界にたったひとつの宝物」(P119)、赤ちゃんから大人までいろいろなサイズの靴下、白い軍手、ボール、魔法のマイク(P39 参照)

学習活動

・・・・・・・・・・(全員での学習)

雰囲気づくりとルールの確認

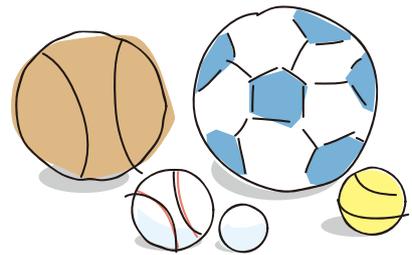
リラックスする雰囲気を作りましょう。また、からだの特徴について学習するので、安心して話せるルールを確認しましょう。

- ルールの例 だれかがからだの特徴について話したら、からだ全体で「話してくれてありがとう」という気持ちを伝える。

1 いろいろなボールを見て、その特徴を出し合う。

- ・先生が前でいろいろなボールを持ち、その特徴を発表させます。
- ・特徴をつかみやすいように、いくつかのボールを用意し、実際にさわりながら考えられるようにしましょう。

- 例 丸い、大きい、やわらかい・・・



2 2人の先生の特徴を見つけ、なぜ違いがあるかを考える。

- ・前に立った2人の教員の、違いを見つけさせて発表させます。
- ・違いのよさを強調するようにしましょう。

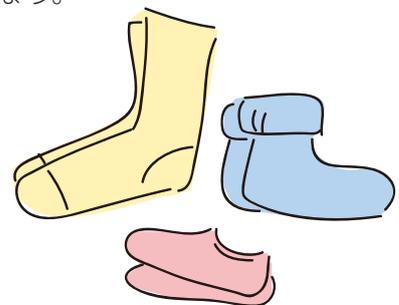
3 いろんなサイズの靴下を見て、自分は、今、どのサイズの靴下を履いているのかを考える。

- ・「この大きさかな」などのやりとりをしながら、児童の反応を大切にしましょう。

4 なぜ履く靴下のサイズが変わってきたのかを考える。

(子どもの反応)「ご飯を食べたから」「寝たから」・・・

- ・「ボールはご飯を食べたり寝たりして大きくなるかな」と問いかけます。
- ・生き物は毎日の生活の中で変化していることに気づかせましょう。



5 自分の手の形をワークシート「世界にたったひとつの宝物」(P119)になぞり、気づいた自分だけの特徴をしっかりとらえて描く。

- ・軍手を出して、色や形の特徴を、教員の手と比べて見せる。自分だけの特徴をいっぱい見つけるよう声かけをしましょう。
- ・血管の色や肌の色むらなど、いろいろな色があることに注目させましょう。



描いた絵を発表しあう。

- ・発表するときのルールを確かめましょう。
- ・どの絵も一生懸命描いたものであることを伝えましょう。
- ・一人一人の特徴を、「あなただけの宝物」だと1つずつ伝え、大切なものという気持ちを育てましょう。

ポイント

- 「違いは宝物」がキーワードです。からだはこうあるべきという決めつけた価値観を持ってしまうと、なかなかその意識を拭い去れなくなります。できるだけ低学年の頃に行うことが効果的です。
- 何よりも、この学習活動を行うにあたって、教員自身が自己受容し、セルフエスティームを高めていることが重要です。教員自身が自分の身体にコンプレックスを持ったまま授業をし、自分の体つきについて子どもの不用意な発言に傷つき、不愉快な思いを表に出したとしたら、その授業はうまくいったとはいえません。まずは、教員間で、自分たちの個性や生い立ち、所属集団などのアイデンティティを語り合しましょう。そして、子どもの見方についての共通認識を持ちましょう。そのうえで、実践を積み重ねていくことがとても大切です。
- この学習活動は、自分を大切にすることから始めて違いを受け止め、差別を見抜き、差別に立ち向かう力を育むという多様性教育プログラム全体の最初の部分です。この活動を手がかりに、いじめ、障害者差別などについて、学級の実態に即して深めることができます。多様性教育の全体像は出典、及び大阪多様性教育ネットワークのホームページ <http://www5d.biglobe.ne.jp/~oden/framepage1.htm> を参考にしてください。

この活動の意義

人の身体的特徴を尊重することの大切さに気づき、自分の生き方につなげます。さらに、人が普遍的にもっている「成長」と「変化」という経験について認識します。この活動は簡単そうだという人がいるかもしれませんが、けれども、学級の子ども一人ひとりを思い浮かべたとき、この学習活動ですべての子どもが元気になれるというのは簡単ではないことに気づくのではないのでしょうか。からだという、あまりに自分に身近なものであるだけに、良くも悪くも学級で自分のことが話題になったら、子どもたちは敏感に反応するでしょう。教員自身が自分のからだをどのように感じてきたか。それをいまは肯定的にとらえているか。たとえ直接子どもたちに語らなかつたとしても、教員自身の姿勢がいつも問われる学習活動です。子どもが幼いうちから取り組むことが望ましいと言えます。



世界にたったひとつの宝物

わたしの _____

みつけたこと

※このワークシートは手が描ける大きさに拡大して使ってください。

2 わたしの長所・短所

全 学 年

ねらい

- ・短所と思っているところの裏面を考えることで、それが長所ともとらえられることに気づき、自分を肯定的に受け入れ自己理解を深める。

準備物

ワークシート（人数分）

学習活動

・・・・・・・・・・（4人程度のグループ学習）

1 ワークシートに自分の最大の短所であると思うことを3点書く。

- 例 自分の思っていることが言えない。

2 他のメンバーにその短所を長所に言い換えてもらう。

- 例 自分の思っていることが言えない→人の気持ちを優先する。

3 感想・気づいたことを記入し、それぞれ発表し合い、感想を出し合う。



わたしの長所・短所
わたし
・人と上手につきあえない
メッセージ欄
自分に対して正直

ポイント

- 自分のよさに気づき、自信を持つことが、他者をも肯定的にとらえることにつながることに気づかせましょう。また、なりたい自分に近づくにはどのような取り組みや努力が必要かを考えさせ、進歩や成長につなげさせましょう。

出典：『多様性トレーニングガイド』森田ゆり 著 解放出版社

3 4つのコーナー

全 学 年

ねらい

- ・自分や他人の考えや思いに目を向けるとともに、人それぞれ考えなどが異なっていることを受け入れる。
- ・意見の違いを尊重し、肯定的な姿勢で対応できる。

準備物

「はい」「どちらかという、はい」「どちらかという、いいえ」「いいえ」の紙（部屋の四隅に貼る）

学習活動

1 問題文を聞き、自分の考えと最も近いと思う場所に移動する。

- ・テーマにそった問題文を 10 個程度用意しましょう。

● 例 学校生活

「宿題は多い方がよい」「1 番大切なのは友達だ」「男の子は女の子より強い」「先生はもっと厳しい方がよい」など

- ・移動したら、どうしてその場所に立っているか数人に質問しましょう。
- ・他人に影響されず、あまり考えすぎないで、自分で決めさせましょう。
- ・正しい答えがあるわけではないことを伝えましょう。
- ・自分はどうしてその場所に立っているのかを考えさせるとともに、移動した後、他の人がどういう考えをもっているかに注目させましょう。





Yes/No ライン

4つのコーナーと考え方は同じ。部屋の一方の壁に「Yes(はい)」を、もう一方に「No(いいえ)」という紙を貼り、その場所に移動する。

それぞれの場所だけでなく、微妙な気持ちを表現するのに中間地点に移動してもよいこととします。

アレンジ

低学年の場合、4つのコーナーに選択肢のカードを貼ることも考えられます。

- Q. 朝、何を食べてきた？ (カード例 パン、ごはん、コーンフレーク、くだもの)
- Q. 好きな遊びは？ (カード例 おにごっこ、ブランコ、ドッジボール、どろだんご)
- Q. 好きな季節は？ (カード例 はる、なつ、あき、ふゆ)

2

ふりかえり

- ・ 全ての問題で、自分と一緒に動く人がいたか。
- ・ 仲のよい友達は、ほとんどの問題で自分と同じ意見だったか。
- ・ 自分の考えが少数派だったとき、どう思ったか。

上記のようなことについて振り返らせ、考えや価値観の違いを受け入れ、尊重することにつなげましょう。

ポイント

- 問題文には、考えさせたい内容を盛り込み、現在の自分の考えを確かめさせましょう。
- 出された問題について、他の人はどのように考えているのかを意識させましょう。
- 少数派の子どもの意見を紹介するようを心がけましょう。
- 人権について考える学習の導入的な活動としても効果があります。そのときは、学習する人権課題などについて関係する質問を入れておきましょう。

4 ジャガイモさんと友達になろう

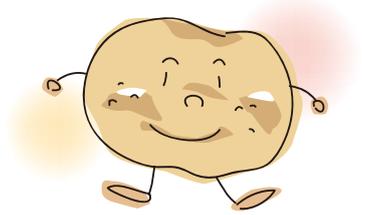
小 学 校

ねらい

- ・決めつけをやめて、素直に自分と友達を見ることの大切さに気づく。

準備物

ジャガイモ(人数分)



違いを豊かさに編

学習活動

・・・・・・・・・・(4人程度のグループ活動)

ミッション(先生からの指示)

朝の学級活動(ショートホームルーム)の時間などに、1人に1つずつジャガイモを配り、次の2つを指示します。

- ①「今日1日、そのジャガイモさんと友達になってあげてください。ポケットに入れるなどして、肌身はなさず持っていてください」
- ②「まず、ジャガイモさんに名前をつけてあげましょう」
※「今日の学級会(ロングホームルーム)の時間に感想を聞く」ことを付け加えます。

1

「ジャガイモさん」をよく観察し、生い立ちや性格を考える。

- ・もう1度よく見つめさせて、「どこで生まれたか、どのような家族で育ってきたか、なぜここにいるか、長所・短所」など、ジャガイモさんの生きてきたストーリーを考えさせましょう。
- ・何を想像すればよいか、ワークシートを用意しておいてもよいでしょう。

2

グループで、自分の友達の「ジャガイモさん」を紹介する。

- ・紹介が終わったら、ジャガイモを集め、誰のジャガイモか分からないように混ぜる。その後、自分のジャガイモを見つけさせましょう。

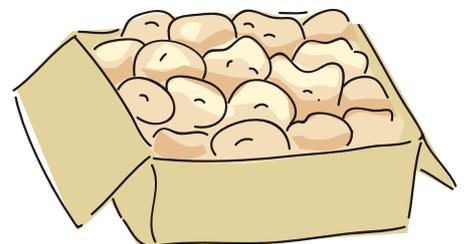
3

全員見つけ終わった後、感想を書き、グループで発表する。

4

ふりかえり

- ・グループごとに出された意見を発表する。



ポイント

- 一見どれも同じように見えるジャガイモですが、よく見ると違いがあることがわかります。その違いこそが、自分の友達のジャガイモを見分けられるものであり、子どもたちにとってなくてはならないものと感じるでしょう。最後に自分のジャガイモを見つけた時の気持ちを表現させ、多様性を考えるきっかけとしましょう。

参考:『人権のための教育』ラルフ・ベットマン著 福田弘訳 明石書店

5 CMクリエイターになろう！

中学校～高校

ねらい

- ・男女共生の視点から情報の在り方に偏りがないかを読み取ることができる。
- ・メディアを客観的に見る態度を育むとともに、自ら主体的に情報を発信していく力を身につける。

準備物

- ・ワークシート「コマーシャル好感度評価シート」「コマーシャル分析ワークシート」
- ・資料「HOW TO コマーシャルづくり」「絵コンテの見本」

学習活動

- 1** テレビCMを録画して分類し、好感度を評価する。
【コマーシャル好感度評価シート】

課題と
の
出
あ
い

ジャンル：家電製品、車、化粧品、食品、菓子、おもちゃ、清涼飲料水、アルコール等

- 2** 次の5点について調べてみる。

調査

- ・どれだけCMに接しているか。
- ・どんな番組にどんなCMが放送されるか。
- ・男女共生の視点で好感度の持てるCMはどれか。
- ・どんな時間にどんなCMが放送されるか。
- ・表現のあり方に偏りのあるCMはどれか。

- 3** CMを繰り返し詳しく見て分析する。
【コマーシャル分析ワークシート】

分析

- 4** 自分たちでCMを作ってみる。

表現

- ・何のCMを作るのか、好感度を評価した商品の中から選ばせ、キャッチコピーを作らせましょう。
- ・どのイメージを伝えるのか、何をどう使うかをじっくり考えさせましょう。
- ・リメイクではなく、新たな発想で作るように指導しましょう。
- ・できればCMを作っている人を講師に迎えて話を聞きましょう。

- 5** 作ったCMを班ごとに発表し、最優秀賞を選ぶ。

評価

- 6** 学年集会で発表し、相互に評価して、グランプリを決定する。

発信

- ・ジャンル別にCMの報告とまとめをさせましょう。
 - ・グランプリ決定には、3つの視点で投票を行うとよいでしょう。
- ① 男女共生の視点 ② おもしろさの視点 ③ アピール度の視点



ワークシート コマーシャル 好感度評価シート

ジャンル	住居・家電		組 班 名 前	
No.	メーカー	商品名	好感度	理由・メモ
1	〇〇〇〇	〇〇冷蔵庫	○	
2	〇〇〇〇	電子レンジ〇〇	△	
3	〇〇〇〇	〇〇電力	×	
4	〇〇〇〇	〇〇〇洗剤	△	
5	〇〇〇〇	〇〇〇石鹸	○	
CM を調べて、気づいたことや思ったことを書いてみましょう。				

ワークシート コマーシャル分析ワークシート

①CMの商品ジャンル ()
例：家電製品・車・化粧品・食品・菓子・おもちゃ・清涼飲料水・アルコール等
商 品 名 ()

②おもな登場人物

	性 別	年 齢	服装・髪型など	行 動	セリフ	役 柄
ア	女・男	オくらい				
イ	女・男	オくらい				
ウ	女・男	オくらい				
合 計			女 人 ・ 男 人			

③商品について説明する声
(バックに流れて、画面には登場しない) 女・男

④アイキャッチャーの手法

⑤ステレオタイプの表現
(気になるセリフ・表情・しぐさ)

⑥その他、気づいたこと
(誇大広告)

※アイキャッチャー…視聴者の視線をひきつける存在
※ステレオタイプ…固定的な思いこみ・偏見

HOW TO コマーシャルづくり

はじめに、しっかり考えて！

- ・何を撮る？…CM 調べで × になった商品から選ぶ (× 以外でも OK)
- ・だれに向けてのメッセージ？ (年齢・男女・何をしている人？ など)
- ・その物の良いところ、言いたいところは？
- ・まじめにいくか、おもしろく (楽しく) いくか！
- ・人 (タレント) を使うか使わないか！
- ・イメージ CM それとも商品 CM ？
- ・喜び・悲しみ・驚き・感動…どんな感情をいれる？

役割分担 (スタッフ) を決めよう！

- ・ディレクター 演出を決め、すすめていく人
- ・アシスタント・ディレクター ディレクターの補助
- ・カメラ担当 (撮影) (カメラはジャンルに一台)
- ・音響・音楽 オリジナルの音楽を作ったり、CD より探すなど
- ・効果 効果音を作ったり、探すなど
- ・ナレーター 語り
- ・タレント 手だけ出演するパーツタレントもあり
- ・照明 レフ板をもって、照明効果をあげる
- ・タイムキーパー きっちり 15 秒を守る
- ・テロップ係 文字担当
- ・その他必要に応じて 衣装・大道具・小道具・メイク・ふりつけ・美術など

さあ、はじめよう！

- ・絵コンテを考えよう！
- ・決定した絵コンテを元に修正し、決定しよう！
- ・役割、撮影場所を決めよう！
- ・各係でリハーサルをし、撮影しよう！

よいコマーシャルとは…

- ・欲張らず、「んっ？これは何が言いたいのかな？」と思わせるくらいがいい。
- ・でも、「きっと、こう言いたいのだろうなあ」と思わせること。

人権問題を考える

〇〇市立〇〇中学校 15秒CM案

この世から差別という字をなくそう【国語辞典編】

〈映像〉

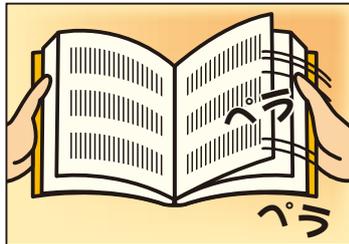
西陽の差す教室の上
国語辞典が置かれている。



〈ナレーション・コメント〉

M: 静かなメロディー
(音楽)

(カメラ: ゆっくりズームイン)
だれかが辞書をめくる
(両手でめくる)



SE: (辞書をめくる音)
ペラペラペラ・・・(効果音)

ピタッと「さべつ」の
ページを開く



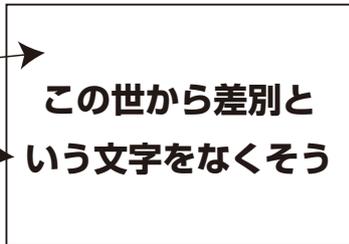
NA: わたしたちは人権を学んでいる
(ナレーション)

ホワイトテープで
「さべつ」の部分を消していく



NA: 差別をなくしたい
SE: (ホワイトテープ)
カチカチカチ

白バック
黒文字



NA: この世から差別と
いう文字をなくそう
M: フェードアウト

さわやかな水色など
学校カラーがあれば使用
白バック



NA: このまちが (数人で)
大好きだから!

時間的に入れればOK、なければNG

違いを豊かさに編